



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2018年(平成30年)12月25日号 No.1780

目次

■ カザフスタンの石油・ガス産業と環境法制の現状 1	1
ー日本との協力の可能性ー	
■ エトセトラ 12	12
セミナー「ロシアによる北極圏開発の現状と展望」のご案内 / 12	
■ 『ロシアNIS調査月報』2019年1月号のご紹介 13	13
■ キーパーソン 14	14
コジェミャコ沿海地方が知事当選 / 14	
サハリン州知事代行がようやく就任 / 15	
■ トピックス 15	15
ガスプロムと伊藤忠がバルティックLNGで協力 / 15	
ハバロフスク空港整備・運営事業で日ロ協定 / 15	
貿易経済に関する日ロ政府間委員会の実施 / 16	
ウズベキスタンで7年ぶりに短期国債発行 / 16	
米財務省が露アルミ大手ルサールの制裁を解除 / 16	
三井物産が北極圏LNGに出資検討 / 16	

カザフスタンの石油・ガス産業と環境法制の現状 ー日本との協力の可能性ー

はじめに

ロシアNIS貿易会は2018年12月5日、セミナー「カザフスタンの石油・ガス産業と環境法制の現状～日本との協力の可能性～」を開催した。石油、天然ガス、石炭、ウラン等、あらゆるエネルギー資源を豊富に生産するカザフスタンでは、電力部門を含め、エネルギー関連の企業はほぼ全てが企業連合「カズエナジー(KAZENERGY)協会」にまとめられている。当会はカズエナジーとは長きにわたる協力関係にあるが、この度、同協会から専門家を招き、日本においては必ずしも知られていないこの組織を日本の関係者に紹介するとともに、カザフスタンの石油・ガス産業および関係する環境法制改革の現状に関わる情報を提供することを目的に、セミナーを開催したものである。

以下にその概要をお伝えする。